

平成 30 年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校 ○常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校 ○自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校 ○普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校 			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるアクティブ・ラーニングの定着が図られつつある。 ・進学希望者の 98.8%が進学を決定し、就職希望者の 100%が就職を決定した。 ・国公立大学 2 名を含む 21 名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が 9 年連続となった。 ・登校指導や服装頭髪指導の徹底により、服装や頭髪の乱れは改善している。 ・「道の市」「笠高キッズ」「笠高ジュニア」「笠間浪漫」などの地域連携行事や笠間駅周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、特別な支援を必要とする生徒がいる。 ・進学希望者に対する、育課程編成を含む進学指導体制の充実が必要である。 ・問題行動の数は減少しているが、心の問題を抱える生徒が少なからずいる。 ・1 年生は夏休み終了まで全員部加入を行っているが、その後の部活動の定着率があまり高くない。 	<p>基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備</p>	<p>①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。</p> <p>②生徒の興味関心を引き寄せる授業や ICT（電子黒板等）を活用した授業等を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。</p> <p>③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、特別な支援を必要とする生徒への学習支援や適切な対応に努める。</p>	A	B
	<p>問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化</p>	<p>④体罰によらないきめ細かな指導と教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNSトラブルやスマホ利用をめぐる新たな問題や課題にも迅速に対応する。</p> <p>⑤家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。</p>	A	A
	<p>主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え、行動する意識と態度の育成</p>	<p>⑥3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。</p> <p>⑦インターンシップや各種講話、「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。</p> <p>⑧学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1年に1資格、卒業までに3資格取得を目標とする。</p>	A	A
	<p>心の教育の推進と特別活動の充実</p>	<p>⑨奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。</p> <p>⑩部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。</p>	A	B
	<p>美術科・メディア芸術科の教育活動の充実</p>	<p>⑪質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。</p> <p>⑫「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。</p> <p>⑬美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。</p>	A	A
	<p>地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動に係る情報の発信</p>	<p>⑭様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。</p> <p>⑮特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。</p> <p>⑯創立 110 周年記念事業に向けた取組を推進し、記念式典を成功させる。</p>	A	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・課題の期限内提出や授業ルールの徹底を図る。②	A	A	・デジタル教科書が導入される予定なので教科内で授業の研究をする。 ・早い段階からの作文・小論文指導の効果的な方法を模索する。 ・検定試験受験者数増加及び合格率上昇に向けての対策を考える。	
	分かりやすい授業展開及び基礎学力の向上	・辞書や便覧、映像等の資料やICTの活用、ワークシートの工夫及びグループ活動を通して、生徒の自主的な学びを促す。①	A	A		
	進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢検など国語関連資格の取得を推進する。②③	B	B		
		・作文や小論文指導を通して自己表現ができるようにする。①⑥ ・短歌・俳句・読書感想文などのコンクールへの参加や読書教育を通して表現力を養う。①	B A			
	地歴公民	基礎的・基本的な学習内容の定着	・義務教育段階の学習内容の定着を念頭に置きながら、小単元・学習内容に応じて基礎的・基本的な学習内容の精選を図る。①②	A	A	・アクティブ・ラーニングを採り入れ、生徒の主体的・対話的な学習を促し、基礎力の定着に努められた。 ・検定試験の受験者・合格者増を目指す。
		指導方法の改善	・スモールステップを念頭に置きながら、アクティブ・ラーニングを適宜採り入れ、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む指導方法の展開に資する。①②	A	A	
		公民的資質の育成	・主権者教育や金融教育、租税教育などを通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑥⑦⑧⑨	B	B	
	数 学 科	基礎学力の定着	・少人数編成授業を活用し、机間指導を充実させ、個々の生徒が達成感を味わえる授業を展開する。②	B	B	・アクティブ・ラーニングやICT活用授業をさらに研究し、よりよいものにする。 ・数学検定の合格率を上げるために、検定対策課外を充実させる。
			・アクティブ・ラーニングやICT機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に授業に参加できる授業を展開する。①②	A		
		進路実現に向けた指導	・入試問題や模擬試験の過去問など、発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧	A	A	
			・数学検定の実施と、それに対応した課外を充実させる。⑧	B		
	理 科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験や実習など体験的な活動や視聴覚教材の活用などをとおして、科学的思考を養う。①②	A	A	・単位数が少なく、実験等を多用すると基礎学力や発展について十分な時間が取れないため、工夫が必要。 ・上級学校への対応は困難であるため、カリキュラム変更が必要か。
生徒の実態に応じた指導の展開		・基礎学力定着のために、既習の基本的な内容の確実な定着を図る。①	B	B		
		・発展的な内容を取り入れることで、上級学校への進学を目指す生徒にも対応していく。②⑧ ・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用し、また、必要に応じて補習を行うことで、生徒一人一人に対応する。②③	B A			
保健 体 育	授業内容の充実と工夫・改善	・保健では学習形態の工夫やアクティブ・ラーニング、ICT機器を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習で得た知識・技能を実生活においても活用することができる授業を実践する。①②	B	A	・主体的・対話的に授業が進められるように学習指導方法の工夫に努める。 ・運動量の確保に努めるとともに生涯スポーツにつながるよう意識して取り組む。 ・安全管理に気を配り授業に集中して参加する意識と態度を育てる。	
		・体育実技では安全管理に気を配り授業に集中して参加する意識と態度を育てる。生徒同士でも安全を確保しながら学習活動をしていくことができるように指導を工夫していく。①	A			
	体力・運動能力の向上	・体育実技では、運動量の確保に努めるとともに、種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。①	A	A		
	指導と評価の一体化	・指導と評価の一体化を進めるとともに、評価の観点を明確にして目的意識を持たせながら意欲的に取り組ませる。①	B	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		
教科	芸術音楽	授業内容の充実と、工夫・改善	・生徒が主体的に授業に参加できるよう、実態に即した教材の選択・精選を行う。①②	A	A	・生徒の意欲を高める教材の選択と、指導方法の工夫・改善。
			・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②	A		
		指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組みさせる。①	B	B	
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	A		
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・生徒の興味関心を引き寄せ、美術の楽しさを伝える授業を実践する。①②	A	B	・作品を展示・鑑賞するための形態を検討したい。
			・文化祭や美術棟での展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。②③	B		
		指導に生かす評価の工夫	・制作における表現を記録、発表させ、お互いに鑑賞することで対話的で深い学びの充実を図る。①	A	A	
	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を付けさせる。①③	A	B	・生徒が興味・関心を持てるような指導法や、教材を工夫していく。
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、単語演習やワークブックなどの課題を適宜出していく。①	B		
		指導内容の充実と工夫・改善	・個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③	A	B	
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	B		
	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・自作課題を作成し、生徒の主体的取り組みを促す。①②	A	A	・生徒が主体的に取り組める教材、指導の方法の工夫に努める。
			・アクティブ・ラーニングなどの指導法の工夫・改善に努めることで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で本当に活用できる力を育てる。①②	A		
			・補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、興味・関心を高めさせる。①②	A		
		実験・実習の充実	・10分の5程度の実験実習を取り入れ、TTの授業を活用したきめ細やかな指導を通して生活力や技術力を高める。①②	A	B	
	・被服製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。①		B			
情報	情報化社会に対応できる能力と知識を身に付ける	・ネット検索を利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本的なパソコンスキルを身に付けさせるとともに、製作物を発表する体験を通して、実践的な活用能力を育成する。①②	B	B	・パソコン操作に興味・関心が低い生徒への指導法を工夫し改善に努める。	
		・身近な事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①	B			
	資格取得の推進	・進路実現に向けた取り組みとして、ビジネス文書実務検定などの各種検定への参加を推進する。②⑥⑧	A	A		
商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じた学習支援や適切な対応に努める。①②⑥	A	A	・ビジネスマナーの定着と、資格取得への意欲を高める働きかけをする。	
		・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②	A			
	職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上と資格取得の推進	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。②	B	B		
		・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑧	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ思考力・判断力・表現力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやICT機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「育てたい笠間高校生像」を職員が共通認識し、新学習指導要領対応の教育課程を完成させる。 ・基礎学力定着のため、計画的・横断的な方策と実践。 ・成績統合システムへの移行。
		・支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③	B		
		・資格取得を推進し、学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧	B		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページ更新を学年・学科・部活動など多くの部署に促し、魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信し、美術科・メディア芸術科の周知を図り受検生の確保に努める。⑤⑫⑬⑭⑮	A	A	
・創立110周年記念事業に向けた取組を推進し、記念式典を成功させる。⑯	A				
生徒指導	基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成	・教師と生徒の人間的な触れ合いの中で、一人一人を十分に理解して信頼関係を築き、生徒が自らの意志で学校や社会のきまりを守り、自己の言動や生活態度を律して、より好ましいものに高めようとする力を育む。④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの派遣回数維持による充実。 ・携帯電話の学校内での使用に関する指導（歩きスマホ・授業中の使用禁止）の強化。 ・自転車置き場の増設。 ・自転車置き場の正しい使い方の徹底。 ・バイク通学生徒へヘルメット着用を強くすすめる。
		・保護者、学年内・外、関係機関との連携を密にし、情報共有をはかり、統一した組織的かつきめ細かな指導を行う。④⑤	A		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談のいっそうの充実	・いじめに向かわない生徒を育成するとともに、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを正確に認知し、防止等のための取り組みを行う。④⑤	A	A	
		・非行防止、防犯、交通安全、ネット安心安全利用教育等の講演会を実施し、生徒の安全に対する意識を高めることで、事故・問題行動の未然防止を図る。④⑤	B		
		・教員が生徒面談に積極的に取組むとともに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用によって、教育相談をより充実させる。④⑤	A		
進路指導	3年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や卒業生を積極的に活用し、進路に対する意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する。③⑥	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学者への指導体制を整え、職員間で共有する。 ・各教科との学習指導体制の連携（上位/下位）。 ・資格取得の更なる推奨 ・進路に対して具体的なイメージを持たせ早期に計画・行動を起こさせる。 ・インターンシップの時期及び受け入れ企業の再検討
		・職場や上級学校の見学、インターンシップ等の実体験を通して、進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑦	A		
	進路希望の実現	・生徒の進路選択の幅を広げるため、資格取得を推奨するとともに、基礎学力を定着させ、応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑧	B	B	
		・進路指導室や進路ハンドブックの内容を充実させ、進路実現に向けて、生徒が自主的かつ主体的に行動するよう促す。⑥	B		
保健厚生	生徒・職員の健康管理の充実および保健意識の高揚	・担任と連携し未受診者の確認を徹底する。各種検診を通して自身の健康について振り返り健康への意識を高める④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の保健意識を高め、疾病、特に感染症の予防に努める。 ・防災避難訓練を生徒が体験できるように検討し、防災意識をより高め、非常時に適切な行動がとれるようにする。 ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。
		・「保健だより」等を通して、生徒の保健意識を高め、疾病、特に感染症の予防に努める。④⑤	A		
	学校環境の美化と整備	・校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める⑨	B	B	
	・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように、安全点検を年2回実施し安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。⑨	B			
防災教育の推進と防災意識の高揚	・地域と連携した防災訓練を実施し、震災などの非常時に適切な行動がとれるようにする。⑤	A	A		
・防災避難訓練の実施内容について検討し、非常時に適切な行動がとれるようにするとともに、防災意識をより高める。⑤	A				
特別活動	部活動の活性化	・顧問の特性や個性を活かし、複数人体制で部活動の活性化を図る。⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が充実した学校生活を送るための主体的行事の実践を通して、生徒間の協調性・自主性が身につくように努めていく。
		・部活動顧問会議などを通して、部活の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑩	B		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑨⑩	A	A	
		・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図ることで、生徒の自主性を育む。⑨⑩	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・LHRの年間指導計画を工夫することで、LHR活動の時間を確保し、充実させる。⑨⑩	B	B	
		・JRC、生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑨⑩	A		
渉外	PTA活動の活性化と学校教育の理解	・保護者が意欲的に協働できる環境を整え、PTA行事への積極的な参加を呼び掛ける。⑤⑬	A	A	・組織活動や基本的な運営を再考する。
		・授業参観や懇談会等の機会を通し、学校が抱える課題や現状を保護者に知らせ、保護者と教師の協力体制をつくる。③⑤⑬	A		
	周年事業の推進	・学校、同窓会、地域社会の懸け橋となり、記念式典を成功させる。⑩	A	A	
図書	読書環境の整備・充実	・除籍作業を適宜行うことで、書架・書籍の整理整頓に努める。②	B	A	・「朝の読書」の意義をさらに周知徹底し読書の楽しさを知る時間とさせる。 ・図書委員の仕事を活発化し、書架や書庫を利用しやすいように整備していく。 ・ICT（電子黒板）を活用しやすい視聴覚教材を教科の要望に合わせて導入する。 ・単なる学習室ではなく、本来の役割に沿った利用を教科に働きかける。
		・実用書や芸術専門書等を導入し、図書館利用者の増加を目指す。②⑪	A		
		・図書室の装飾を含め読書環境の整備をし、利用しやすい図書館づくりに努める。②	A		
	図書委員会の活性化	・図書委員に当番の仕事についての的確に伝えることで図書委員としての自覚を促す。⑨⑩	B	A	
		・図書の整理や受け入れ作業などの具体的な仕事を図書委員に与え、その活動時間を確保することで主体的な活動を促す。⑨⑩	A		
	視聴覚教材の管理・活用	・ICT（電子黒板）を適正に管理し、授業などで活用しやすい態勢作りに努める。①②	B	B	
「朝の読書」の充実・管理	・「朝の読書」の意義と、静寂を保つ大切さを周知徹底していく。①②	B	B		
	・学級文庫を充実させるための書籍の追加や入れ替え作業を定期的に行う。②	B			
事務	財務会計の適正な執行	・予算執行においては、各担当部署からの要望・内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。特に、「一人一人が輝く学校づくり推進事業」に係る予算においては、担当者と連絡調整を適時行い、計画的な予算執行に努める。	A	A	・ICT教育のための環境整備を進める。 ・老朽化による修繕個所の増加に対し、優先順位を見極め効率的に対応する。 ・校務用パソコン更新（補充）を行う。 ・生徒の健康管理を第一に考慮しつつ省エネに努める。 ・個人番号の運用と適正な個人情報の管理を行う。
		・財務会計規則等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。	A		
	施設設備の適切な維持管理	・各担当部署の要望に基づき、備品の更新等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。	B	A	
		・安全な教育環境を保持するため、施設設備等の修繕・改修を速やかに行い、適正な対応に努める。	A		
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。	B	B	
・グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。		B			
美術科	教育活動の充実と体系化を図る	・生徒が意欲的に制作に取り組めるよう、指導内容を体系化し複数の教員で連携ながら実技指導を行う。①②⑪	A	B	・専門知識及び技術を持った教員の確保と連携 ・「活力ある学校づくり」のよりよい活用法の検討 ・地域連携事業における生徒の主体的な活動のための意識向上 ・定期的な情報発信
		・生徒の実態に応じて、指導方法の見直しや工夫・改善に関する研修を行う。①②	B		
	進路指導体制の充実	・早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」を活用しながら希望進路の実現を目指す。②⑦⑫	A	A	
	主体的な体験活動の充実	・地域連携行事等を充実させ、生徒が主体的に活動しながら美術の諸能力とコミュニケーション能力の育成に努める。⑨⑪⑫	A	A	
教育活動の積極的広報	・質の高い作品制作を推進するとともに、様々なメディアを活用して作品を発信し広報を図る。⑪⑫⑬	B	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
メディア芸術科	教育活動の充実	・専門の授業での言語活動、表現力を高める授業形態の工夫・改善，異校種交流や地域交流活動等の内容充実など，授業と行事を体系化することによって，映像メディアにおける「伝える力」を伸長する。①②⑥⑪⑫	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選及び授業の体系化の継続。 ・学習及び作品制作の時間確保。 ・進路への意識付けによる家庭学習習慣の早期確立。 ・上級学年から下級学年への行事及び進路意識の引き継ぎを確立。
	教育活動の積極的広報	・学科説明会や体験入学，卒業制作展等のホームページによるタイムリーな情報発信を行うとともに，地域主催のコンクール等に積極的に応募することで，映像メディアを媒体としたメディア芸術科の周知と地域交流を進める。⑬⑭⑮	A	A	
	進路の実現	・学習に対する目的意識を持たることによって，家庭学習の習慣を身につけさせ，進路実現に必要な学力および表現力を伸ばし，進路の実現を図る。①②⑦⑪⑫	B	B	
1 学年	基礎学力の定着	・積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ，生徒たちが主体的に学べる授業を展開する中で，基礎学力・思考力・表現力の定着・向上に努める。①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上，基本的な生活習慣の確立に継続して努め，生徒が自信と自己肯定感を持って物事に取り組むことができる学年を目指す。 ・生徒が学ぶ楽しさを感じることができるよう，授業を充実させる。 ・生徒たちが主体的に楽しく参加できる行事を企画する。
	基本的な生活習慣の確立	・保護者と連絡を密に取り，生徒の状況を把握し，極力欠席・遅刻をさせないよう指導していく。④⑤	B	B	
		・生徒たちと丁寧に接しながら，他者を理解し，優しい心を持った生徒を育てていくように努める。④	A		
	非認知能力の向上	・総合的な学習の時間「LIFE」や学校生活を通して，内発的に物事に取り組もうとする意欲の向上に努める。⑨⑩	B	B	
・部活動や生徒会活動への積極的な参加を促し，ひとつのことに粘り強く取り組む力を向上させる。⑨⑩		B			
2 学年	基本的な生活習慣の確立	・服装頭髪指導の徹底を図り，笠間高校生としての誇りと自覚を促す。④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を意識した基本的な生活習慣の確立。 ・進路意識を高め，意欲的に学習できる環境をつくとともに，進学を目指す生徒に向けた課外等の充実を図る。 ・生徒の一人一人が進路実現するために，それぞれに応じた支援・指導を行う。
		・保護者との連携を図り，欠席・遅刻・早退を習慣化させない指導に努める。⑤	B		
		・生活指導や修学旅行等とおして，適切なコミュニケーション能力や社会人として必要なルールを身につけ，常識ある態度と健全な心の育成を目指す。⑨⑩	A		
	進路に応じた基礎学力の確立	・生活の指導や授業において，アクティブ・ラーニングの手法や ICT を利用するなど工夫し，生徒が深く理解し，思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるよう指導に努める。①②	B	B	
進路指導の充実	・各種進路行事，課外，資格取得，インターンシップなどとおして，進路に目的をもち，努力を重ねることで充実感や向上心をもつことができるように，進路意識の育成を目指す。⑥⑦⑧	A	A		
3 学年	基本的な生活習慣と常識ある態度の育成	・学習指導や生活指導を通して充実感や向上心をもち，自己肯定感を高められるように努める。④⑤⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「学力につながる目標をもつ」ことができる指導を目指す。 ・遅刻早退欠席を減らせる方策を検討する。 ・自己肯定感をより高めるための方策が必要である。
		・卒業後の進路を見据えて，基本的な生活習慣や規則正しい生活の大切さを認識させ，社会人としての常識ある態度を身に付けさせる。③④⑤⑥	A		
	進路に応じた学力の向上	・授業第一とし，アクティブ・ラーニングを取り入れるなど授業の工夫をすることによって，思考力，判断力，表現力をさらに伸ばし，生徒が自ら学ぶ意欲を引き出せるように努力する。①②⑥	A	A	
	進路指導の充実	・進路ガイダンスなどや面接指導，個別面談を実施し，希望する進路の実現に向けた指導を行う。⑤⑥⑧	A	A	

※ 評価規準：A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった